

「企業会計」の決算状況

病院事業

●収益的

・収入 154億1,763万円
・支出 143億3,704万円

●資本的

・収入 25億3,832万円
・支出 28億2,373万円

◇収益的収支が5年連続の黒字

◇医業収支は13年連続の黒字

新型コロナウイルス感染症が感染の拡大と収束を繰り返すなか、地域の医療機関との緊密な医療連携と機能分担を進め、良質な医療の提供による収入確保と経費削減に努めた結果、10億8,059万円の黒字となりました。

水道事業

●収益的

・収入 20億5,855万円
・支出 18億3,153万円

●資本的

・収入 5,410万円
・支出 6億1,331万円

◇収益的収支は黒字だが減少傾向

家庭用使用水量の減少等に伴う給水収益の減により、収益は減少しましたが、突発的な漏水に対応するための修繕費や、企業債の償還が進んだことに伴う支払利息等の減により、

水道事業費用も減少しました。

これにより21年連続して当年度純利益は生じましたが、利益額は減少傾向にあります。

水道施設は経年化が進んでおり、今後更新費用が増加する見込みのため、健全経営に必要な収益をいかに確保するかが課題となっています。

下水道事業

●収益的

・収入 33億3,667万円
・支出 33億1,594万円

●資本的

・収入 18億4,773万円
・支出 28億14万円

◇一般会計からの補てんにより

収益的収支が黒字

有収水量の減による使用料収入の減少はあったものの、企業債償還利息の減少により、約2,073万円の黒字となりましたが、これは一般会計からの補てんによるものです。一般会計からの補てんを減らし、安定的な自立経営を実現するため、令和5年度および令和8年度以降に行う使用料改定を通じて、適切な使用料体系を確立し、接続率の向上を図るなど経営の健全化に取り組んでいきます。

半田市の財政を家計にたとえてみると…

1か月の支出43万2千円(※)をまかなうのに、月収(市税など)や国・県からの給付金(国庫支出金、県支出金)など、45万円の収入がありました。

今後、家族の医療費(扶助費)や家の補修費用(維持補修費)の増加が見込まれるため、計画的に貯金(基金)を増やすことも考えなくてはなりません。

はんだ家1か月の家計簿

☆ () は予算上の項目です。

収入

月収(給料、各種手当) (市税、地方交付税、地方譲与税ほか)	27万1千円
国・県からの給付金 (国・県支出金)	10万円
パートなどの副収入、資産活用、雑収入など (使用料、負担金、財産収入など)	3万4千円
先月の残り (繰越金)	2万8千円
ローンの借入 (市債)	1万7千円
合計	45万円

支出

生活費(食費、光熱費など) (人件費、物件費)	12万7千円
家族への仕送り (繰出金、補助費等)	10万円
家族の医療費など (扶助費)	9万6千円
家の増改築、補修など (維持補修費、普通建設事業費)	6万3千円
貯金など (基金積立金など)	3万1千円
ローンの返済 (公債費)	1万5千円
合計	43万2千円

※日本の一世帯当たりの平均所得月額45万円に、半田市の一般会計歳入歳出決算額に占める各費目の割合を乗じ、一般家庭に相当するそれぞれの額を算出しています。(参考:厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」)